

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	下水道課	主管課長名	潮田雄一
5-5	施策名	下水道の整備	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	市民	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値						41,278	40,483	39,692		
②桜川市世帯数			見込値	世帯		13,700	13,684	13,668	13,652	13,636
						実績値	13,700	13,660	13,695	
		見込値								
						実績値				
的		施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
		快適で衛生的な生活環境で暮らしている。	①生活排水処理普及率		%	目標値	68.70	69.00	69.30	69.60
実績値							70.5	69.1	69.8	
②公共下水道普及率				%	目標値	15.70	15.80	15.90	16.00	16.10
	実績値					15.8	16.0	16.2		
③桜川の水質(BOD)(市内の最下流「地蔵橋」地点)			mg/L	目標値	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	
					実績値	2.3	1.4	1.2		
④公共下水道接続率 農業集落排水接続率			%	目標値	54.0	56.0	58.5	60.0	61.5	
					実績値	53.47	56.67	58.59	83.5	84.0
			%	目標値	80.5	81.5	82.5			
					実績値	80.4	81.2	83.58		
⑤公共下水道使用料収納率 農業集落排水使用料収納率		%	目標値	98.80	98.80	98.80	98.80	98.80		
				実績値	97.65	97.65	97.65	97.65	97.65	
		%	目標値	98.78	98.75	96.52				
				実績値	97.56	97.86	97.61			
成果指標設定の考え方	○「快適で衛生的な生活環境で暮らしている」の指標については①生活排水処理普及率の指標が上がれば成果が上がると考えられる。 ○「公共水域の水質汚濁防止」について、桜川市内の最下流「地蔵橋」地点の水質(BOD)で見る。(基準値2.0mg/L)									
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口、世帯は、毎年10月1日の常住人口。 ○①生活排水処理普及率、②公共下水道普及率、④公共下水道接続率・農業集落排水接続率は、生活排水ベストプランより求める。⑤公共下水道使用料収納率・農業集落排水使用料収納率は、過去の実績より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> 生活排水処理普及率は、令和元年度で69.8%、平成30年度で69.1%で0.7ポイント向上した。 公共下水道を対象とする下水道普及率は令和元年度末で16.2%、平成30年度末は16.0%であり0.2ポイント増加した。 桜川の水質については、令和元年度は1.2mg/L、平成30年度は1.4mg/Lであり、0.2ポイント向上した。 公共下水道接続率は、令和元年度58.59%、平成30年度56.67%と1.92ポイント増加した。農業集落排水接続率は、令和元年度83.58%、平成30年度81.2%で2.38ポイント増加した。これらの要因として、公下、農集とも、平成30年度より接続工事費補助金を導入したことによると思われる。 公共下水道使用料収納率は、令和元年度96.52%、平成30年度98.75%であり2.23ポイント低下した。農業集落排水使用料収納率は、令和元年度97.61%、平成30年度97.86%であり0.25ポイント低下した。 まとめとして、普及率、接続率が向上したが、収納率は低下した。しかし、本年度は、法適用会計の変更により3月打ち切りとなったため、使用料が一部未収金として処理されたため、そのことが原因と考えられる。よって成果はどちらかといえば向上した。 		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> 生活排水処理普及率は、令和元年度目標値が、69.3%に対し、69.8%であり、0.5ポイント上回った。 公共下水道普及率は、令和元年度目標値は15.9%に対し、16.2%であり、0.3ポイント上回った。 桜川の水質(BOD)は令和元年度目標値は、1.1mg/Lに対し、1.2mg/Lであり、0.1mg/L下回った。 公共下水道接続率は、令和元年度目標値は、58.5%に対し、58.59%と0.09ポイント上回った。 農業集落排水接続率は、令和元年度目標値は、82.5%に対し、83.58%であり1.08ポイント上回った。 公共下水道使用料収納率令和元年度は、98.80%に対し、96.52%と2.28ポイント下回った。 農業集落排水使用料収納率は、令和元年度目標値は、97.65%に対し97.61であり、0.04ポイント下回った。 まとめとして、普及率、接続率が目標値より向上したが、収納率は低下した。しかしながら、本年度は、法適用会計の変更により3月打ち切りとなったため、使用料が一部未収金として処理されたため、そのことが原因と考えられる。よって目標値どおりの成果であった。 		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<p>施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で以下の事業が大きく貢献したと考える。</p> <p>公共下水道普及促進事業は、公共下水道事業接続工事費補助金の拡充により、接続率が上回った。</p> <p>また、同様に農業集落排水接続率が上回ったことも、接続工事費補助金の拡充によるところである。</p>	<p>下水道事業の効率的で健全な事業運営に努め、以下の取り組みを重点的に行う。</p> <p>下水道事業の普及啓発に努め、公共下水道接続工事補助金の拡充により、接続率の拡充を図る。</p> <p>また、農業集落排水接続率向上のため、接続工事補助金は平成30年から令和3年までであることから、残り2年間で普及啓発に努める。</p>